

## なぜ縮小社会研究会に入会したか？

五十嵐 敏郎

大学院修士課程を修了後に入社し 30 年以上勤務した S 化学を 2004 年末で早期退社し、それ以降に全く最初から取り組み始め、現在も継続している活動を以下に示す。

- ・ ロト・コンサルタント ジャパン：回転成形の普及活動
- ・ 金沢大学：回転成形の研究
- ・ 住化エンバイロメンタルサイエンス（株）：ベクター・コントロール製品の開発
- ・ 再生塾、安寧の都市クリエイター：持続可能な都市計画と交通システム
- ・ クオリア AGORA、ゲーテの会、未来研究会：様々な社会問題に対し、自由に議論
- ・ もったいない学会：石油ピークの啓蒙と脱浪費社会を目指す
- ・ 縮小社会研究会：2017 年にも始まる石油文明の終焉時の社会の在り方を議論

一見すると、何の脈歴もないようだが、私の中では深く関連している。自分の略歴を振り返る中でそれについて述べる。

### 1) 1980 年代

スプレードライヤーの試験のため、コペンハーゲンに 1 週間滞在した。午後 5 時過ぎにその日の試験が終了したが、時期は 6 月末で午後 11 時ころの日没まで長い時間を持て余し、街を歩きまわった。ウィンドウショッピングをした中で転倒予防製品を展示している店が目にとまった。一般的に日本ではデザインがダサく、種類も少なく、色も汚れが目につかない灰色であった。ウィンドウに展示してある製品は種類も多く、スマートなデザインで、おまけに何色も用意されカラフルであった。誰でも転倒予防製品（杖など）は使いたくない。やむなく使わざるを得ない人たちに対し、日本は上から目線で使わしてやるから我慢して使えという雰囲気に対し、デンマークでは自分に合った製品をとっかえひっかえ試せると。おまけにデザインが美しくカラフルなため誇りを持って使用できる。

その時、「今後は多品種・小ロットの物作りが大切になる」と予感した。

### 2) 1990 年代

パウダースラッシュ用コンパウンドの技術輸出で何度も米国とオランダ・フランスを訪問。スラッシュ成形と回転成形とはコンパウンドの設計思想が逆であり、回転成形が盛んな欧米の会社の研究者にスラッシュ成形を理解させるのに苦労した。日本では回転成形は大型のタンクの成形法

との認識しかなかったので、彼らに頼んで代表的な回転成形工場を見学させてもらった。そこでは、日本で持っていた認識と異なり、回転成形でデザイン性豊かな製品群が成形されていた。

その時、「なぜ日本では同一規格品の大量生産指向が強いのか?」、「なぜ日本では回転成形が忘れられているのか?」という疑問を持った。

### 3) 2002年5月

技術輸出先の人から 2nd Pan-European Rotomoulding Conference がパリ・ディズニーのホテルで行われると知らされる。

このようなマイナーな会議への出張参加は認められないし、妻と一緒に参加することも認められない。そこで、妻の慰労を兼ねて代休・有給休暇を取り、自費参加した。

参加者はヨーロッパを中心に 371 名で、Exxon、Dow、Bayer、Dupont など欧米の大手材料メーカーから多数参加していた。これらの材料メーカーは、ブースを設け、共同で朝食のサービスをしていた。日本のメーカーの会議に対する姿勢の差を痛感した。

東アジアからの参加者は日本からの2名だけであり、もう一人の参加者はヨーロッパ駐在員が顧客を案内しての参加で、会議場で議論に加わる参加者は私一人であった。

### 4) 2004年末

急に両親の介護が必要になったために海外での事業展開の業務が出来なくなり、S 化学を早期退職した。会社の支えなしで一個人としてできることは何か、必死に模索した。そして、日本では全くといってよいほど注目されないが、欧米や OZ/NZ では大手材料メーカーも含めてそれなりに注力されており、最近では中国・インド・中南米・アフリカ・東南アジアなどで、Association を創るなど活発な活動が始まっている回転成形であれば、人脈もあり個人の力だけで取り組めるのではと考え、「回転成形の日本での普及活動」を自分のライフワークにしようと決心した。

### 5) 2005年～現在

地産地消や多品種・小ロット生産に適した回転成形の日本での普及活動を継続中。その中で、石油資源問題の重要性に気づき、石油資源が縮減したときの社会の在り方、私たちの生活の在り方について、2015 年 1 月から「縮小社会研究会」に参加して議論を行っている。

石油資源問題については、「もったいない学会」で議論を深め、持続可能な都市計画と交通システムについては、「再生塾」、「安寧の都市クリエイター」に参加して議論している。さらに機会あるごとに、クオリア AGORA、ゲーテの会、未来研究会に参加し、様々な社会科学的な問題についても議論し、自己の視野を広げる努力をしている。

2005 年以降、会社時代のキャリアと無関係に始めた回転成形の日本での普及活動を基軸に、自分の活動範囲を広げ、深めてきた経緯を示す。このような人生もあるのだという一つの事例として参考にしてもらえれば幸いである。